

## 2020年度 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価報告

松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会

2020年度学校関係者評価委員会は、「2019年度学校自己評価」（各学年担任団、校務担当の各部ごとに実施）、「2019年度学校評価アンケート」（全校生徒・保護者対象。以下「アンケート」）、「学校見分」（施設見学・行事見学・授業参観を今年度未実施）にもとづき、学校運営の改善を図るために実施した「学校関係者評価」を報告します。なお、今年度は新型コロナウイルスの影響下で、学校見分・討議を繰り返すことが困難であるため、8月26日に委員の方々にいただいた意見とその後に文書でお預かりした意見をもとにまとめる形式としました。報告形式が過年度と異なることをご報告いたします。

本委員会は次の3点を柱として協議しています。

- （1）キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。
- （2）学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。
- （3）豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

### （1）キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。

- ・学校評価アンケートの結果を見て、キリスト教に基づく教育という点で中学からの6年間、また高校入学生にとっての3年間で何十回という礼拝や聖書の授業に触れ、キリスト教が少しずつ心の中に根付いているように感じた。
- ・小学校の6年間でキリスト教と触れ合う機会がなかった生徒が多数入学しており、その生徒たちが入学後すぐにキリスト教の教えを理解することはなかなか難しい。週1回の聖書の授業、朝の礼拝、イースターやクリスマス等の特別礼拝などを体験することで自然とキリスト教の教えが身につくように思う。娘の様子を見て、聖書を通して色々と考えているのだと感じる事がある。そういう意味で知らぬ間に生徒達にキリスト教精神がきちんと浸透していつているのではないかと。各種礼拝やボランティア活動など在校中に興味あるものをいくつか（必ず）参加しなければならない！というふうに義務づけるのも一つの方法ではないか。
- ・キリスト教に関して中学生より高校生の満足度の高さは、礼拝や聖書の時間を通じて年数を重ねるごとに子どもたち一人ひとりの中に着実にキリスト教が浸透していつている証拠だと思う。折に触れて宗教部の先生が「〇〇の災害で被災され困難な中にいる方々」など仰ってくださるので、ニュースでとりあげられなくなり忘れがちな被災地を子どもたちが思い出し、心を寄せることが出来る。子どもたちにとっても「今自分がこうしている時にも苦しんでいる人達がいる」ということに気づくのは大切なことだ。
- ・命の大切さや人権について学ぶ機会を、大多数の生徒の皆さんがしっかりと認識されているのが良い。優しく、そして強い心を育てていただきたい。
- ・マナー、心のマナー、いのちの学習、平和、生き方⇨キャリアの学習、持続可能な人生を考える、震災学習、進路学習、主体的に考え判断し伝える力の養成など、6年を通して、人間として成長出来るように指導がされている。学校が、相手を思いやる心を持ちながら、しっかりと自分の考えも発表出来るような女性を生み出す場＝松蔭になって欲しい。

### （2）学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。

- ・部活動がやや寂しい。先生方が部活動を活発化させるのは大変なので、外部の指導者を積極的に取り入れてもよいのではないかと。例えば、大会を目指すようなダンスチームの指導者を招いて盛り上げていくなど、いい成績を残すことで受験生の数も伸びるのではないかと。

- ・アンケート結果からは、中学高校共にいじめや人間関係に悩み苦しんでいる生徒は少ないようだが、多感な年ごろの子達が集まって生活をしている以上、悩みや問題を抱えている生徒はいる。そんな中で、先生方が日々生徒達と向き合っていて、一人一人に対応してくださっていることに感謝する。学年主任や担任の先生方はトラブルも人間関係を構築していく上で大切な経験であると教えてくれた。

- ・部活動においては、人間関係作りを顧問の先生がもう少し介入して教える必要があるように思う。
- ・「入学して良かった」「良い友人ができた」「クラスは居心地がいい」の満足度が高く、親の立場からみても子どもを通わせるのに安心できる学校と思える。また、学校評価において最高の誉め言葉だと思う。
- ・中学生だけの設問に「いじめはないと思う」に関して、娘や周りから聞いた話では先生方が真摯に受け止め素早い対応をしてくださっている。
- ・直接いじめにつながるわけではなく、可能性が高い例として、個性の強い子どもとのかかわり方があるように思う。（娘が中1の時の話）担任の先生の説明もありその子を受け入れようと子供たちなりにしていたようだが、まだまだ子どもなので中々難しい場面があるようだ。

### （3）豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

- ・今年度の中学1年生のコースが数年後、どのように成果が表れてくるのかが楽しみだ。コロナ禍により交換留学が困難だが、早く終息し再開を祈る。
- ・「英語の松蔭」を掲げているのに、アンケート結果からは英語に対する高評価がまだ得られてないようだ。とはいえ、英語は受験のみならず、これから先の生活にも大きく影響してくるものなので、松蔭での英語教育に大いに期待したい。ネイティブの先生との英会話は娘にとっては楽しいようだ。また、ICTを取り入れた英会話授業も刺激を受けているようで、このような環境下で英語を学べる事をありがたく思わなければならないと思う。
- ・授業の分かりやすさ(おもしろさ)でかなり学力が左右されますが、分かりやすく教えてくれる先生に自由に質問できる環境は生徒達にとっても保護者にとってもありがたい。これからも、この環境を続けていただきたい。
- ・進路実現を図る教育は日々、学校や先生方が情報収集に励んで努力してくださっているのだから安心している。大学入試制度の方向性が不安定なので、先生方も大変だと思うが、担任の先生が大学受験に向けて上手に指導してくださっていることで娘の自宅学習への取り組み方が前向きになった。
- ・「英語の松蔭」というフレーズがいまひとつピンとこない。「松蔭に入って英語が好きになった」が中高共に50%を下回るのに、「英語力がついた」は60%に近い。英語の授業はしんどくて嫌だけど実力はつく、と思っている子どもが多いのだろうか。一方で、イングリッシュルームや海外研修、英検対策講座など、先生方が力を入れておられるのが分かる。中1のGSコースもはじまり期待する。
- ・高校生になると子どもたちの勉強に対する意識が変わるのを感じる。選択説明会や進路説明会を通してビジョンが明確になっていくからかもしれない。指定校推薦の大学がたくさんあり、そこを目指す子どもが多い。入学したら今度は自分たちも後輩のために頑張らないといけない。そのことを理解し目指すのはとても素晴らしい。進路ステーション、大学受験の必要な対策、補習に関しては60%近く満足している。自分にあった進路指導では満足度が70%近くある。これは、学年団の先生方が6年間一人ひとりの子供たちをよく見て理解してくださったおかげだ。

以上、2020年度学校関係者評価委員会の報告とします。

(参考) 学校法人松蔭女子学院 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会規約 (抜粋)

#### 第2条 (目的)

この会は、学校の現状と課題を明らかにし、併せて教職員による自己評価について、学校関係者による評価を行い、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

#### 第3条 (活動)

この会は、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- 1、自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- 2、生徒・保護者による学校満足度調査結果により、学校の現状を把握する。
- 3、授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- 4、学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうか評価する。
- 5、その他必要な活動は、学校関係者評価委員の協議により行う。

#### 第5条 (組織)

この会は、次の構成員によって組織する。

- 1、学校関係者評価委員 6～8名

保護者代表 (PTA本部役員)、神戸松蔭女子学院大学代表、

卒業生 (千と勢会) 代表、その他学校関係者として校長が委嘱する者

- 2、校長、副校長、事務長 4名